

## ◆今期間のポイント

## ＜主要しょう乱の概要＞

- 2月1日は、気圧の谷が北日本付近へ進む。低気圧が日本の南を東進する。
- 2日は、気圧の谷と低気圧が日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 3日は、高気圧が東シナ海へ移動して、日本の南に張り出す。日本付近は北日本中心の冬型の気圧配置となる。
- 4日は、高気圧が日本の南へ移動し、日本海は気圧の谷となる。
- 5日は、気圧の谷が日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。

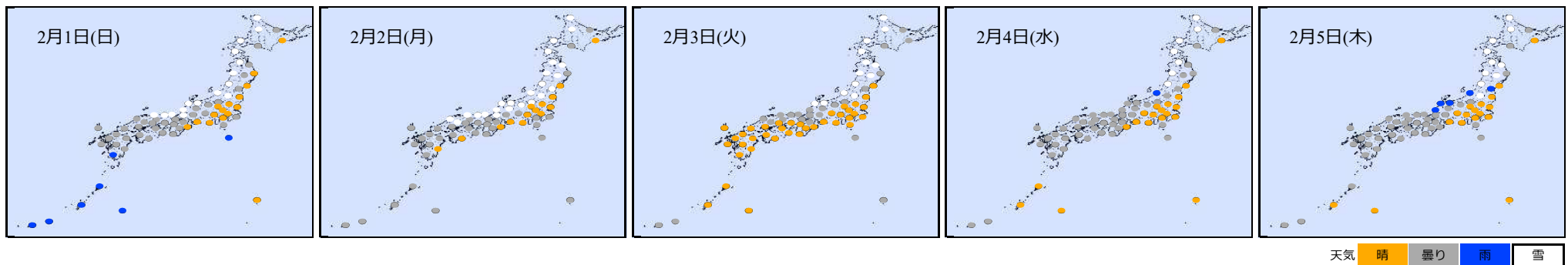
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

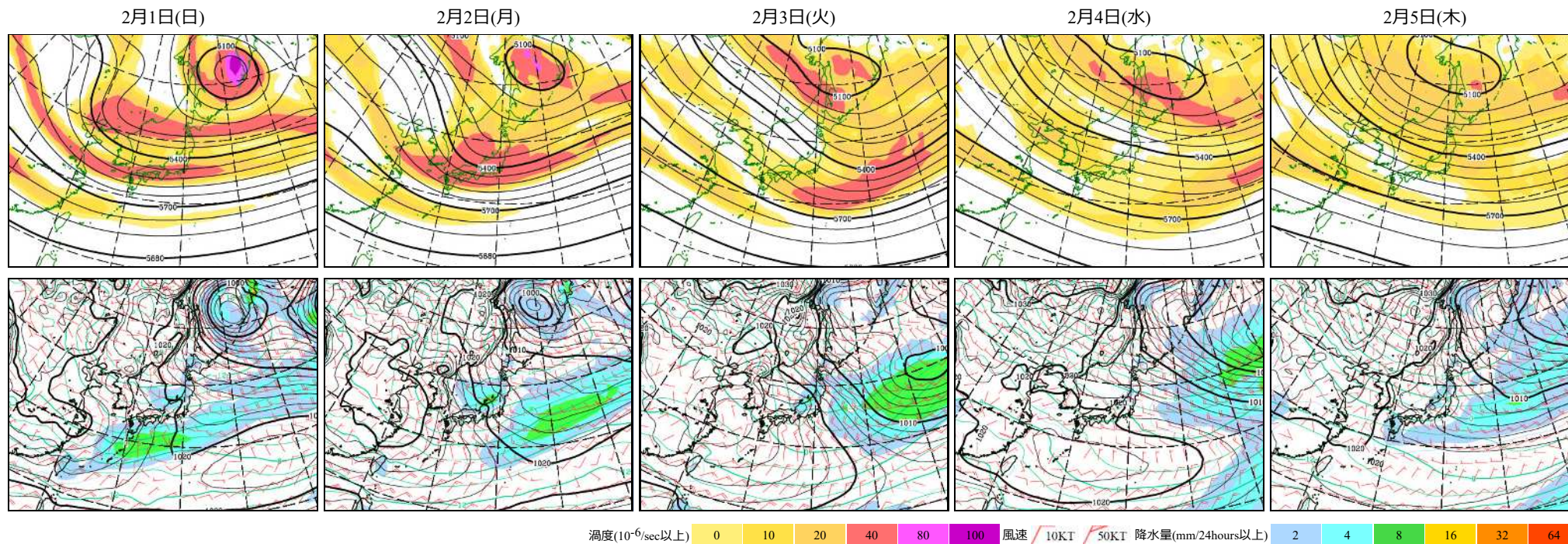
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



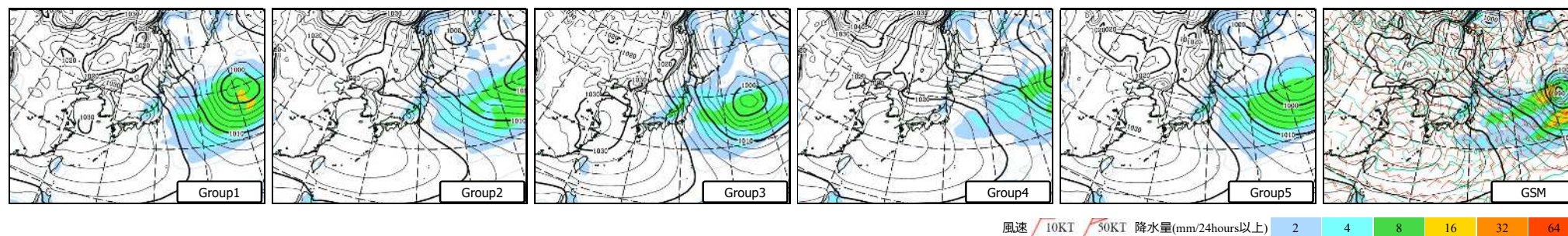
- 北日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 北日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、2月1日は雨の降る所が多く、その後は曇りや晴れの日が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月3日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、2月4日は朝鮮半島付近のトラフが浅くなり、日本付近の気圧の谷が不明瞭となって、東日本日本海側と西日本の降水確率が小さくなった。
- 2日の日本付近のトラフは、GSMとNCEPがECMに近づいておおむね揃った。3日以降は、各モデルとも日本付近は西北西の流れのなか、浅いトラフが通過する予想だが、強い寒気の南下は予想されていない。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。